

平成30年4月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年4月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月と比較し、売上高は不変、収益状況及び景況感は8ポイント悪化した。

前月との比較では、売上高で12ポイント、収益状況は8ポイント、景況感は4ポイントいずれも悪化している。

業種別のD I値において、製造業は、金属加工及び一般機器の業界においては好調が続いているが、骨材製造における製品出荷量や、木材・木製品製造業の受注減少が影響し、製造業全体として、収益状況、景況感がそれぞれ悪化する結果となった。

一方、非製造業で、建設業において年度末需要の反動により、受注の減少に併せ売上高も減少した。原材料価格が高騰している中で発注者からはコストダウンを迫られる状況が続いており、収益確保に苦慮していることが伺える。青果や水産物は冬の価格高騰の影響から消費者離れが進み、非製造業全体として景況感の改善は見られなかった。また、人材確保・人材育成が困難な状況が続いている。これは非製造業に限らず広範囲な業種の課題であり、中小企業にとって労働力確保が重要課題の一つとなっている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

| | |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食料品 (水産物加工) | ギフトの売上は前年比98.9%。ホテル・レストラン・居酒屋向けの業務用が低調であったため全体として前年同月比95.1%と前年を下回った。 |
| 食料品 (洋菓子製造) | 自社製品の売上は輸出向けが30%伸長したが、量販店及び専門店向けが前年比97.5%、OEMは焼き菓子が97%、冷凍ケーキ63%と大きく落ち込み全体の売上は前年同月比93.2%。 |
| 食料品 (麺類製造) | 4月10日「ほうとうの日」はメディア等でとりあげられ、盛況に終わった。今後は一定の期間ではなく、年間を通じ多くの消費者に興味をもたれるよう活動していく。 |
| 食料品 (パン・菓子製造業) | 原油の高騰傾向から、ボイラーに使用する灯油も値上りしている。値上り分を商品に転嫁できず厳しい状況。 |
| 窯業・土石 (砂利) | 生コン用等砂の出荷が増加し売上高が前年比20%増加した。 |
| 窯業・土石 (山碎石) | 年度末で工事が終盤にさしかかったことから発注が増加したが、売上高は前年同月比で4%悪化。改善傾向は見通せず、新年度工事の早期発注に期待している。 |
| 一 般 機 器 | 半導体関連が好調で、売上高は4%、収益状況は3%それぞれ改善した。中国経済の減速や日米中の貿易摩擦が懸念される。今後の動きを注視していく。 |

| | |
|---------|---------------------------------------------------------|
| 電 気 機 器 | 前年同月比で売上高、収益状況、景況感とも悪化。今後の需要の増加が望めず、先行き不透明。 |
| 電 気 機 器 | 半導体部品製造は好調が続いているが、今後数か月間は生産調整が行われる予定があるため、今後の動向に注視していく。 |
| 宝飾(貴金属) | 甲府ジュエリーフェアでの販売が好調で、売上高は前年同月比で40%改善。 |

● 非 製 造 業

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卸売(紙製品) | 中国の古紙類の輸入規制による影響から、売上高及び収益状況は40%悪化した。 |
| 卸売(ジュエリー) | 甲府ジュエリーフェアでの海外バイヤーによる売上高が前年比の2倍と好調であった。インターネット決済を導入したことが売上の増加につながったと考えている。 |
| 小 売(青果) | 野菜の入荷量が増加したため販売価格は品物によっては50%低下したが、これまでの高値による消費者の野菜ばなれから売上が伸びなかった。今後に期待している。 |
| 小 売(水産物) | 消費者の「魚ばなれ」が進行していることに加えて、水産物仕入価格の上昇が影響し、地域小売店の衰退につながっている。平成29年度は組合員10名が脱退した。 |
| 小売(その他) | 組合員企業の中には定年退職等による雇用人員の減少に対し、補充を行わない企業がみられる。欠員を補充せずとも事業の継続可能なほどに業界の景気は低迷している。 |
| 小 売(石油) | WTI原油が3年ぶりに70ドルを超え卸価格も上昇傾向である。小売価格も上昇を続けるが、転嫁ができないため収益につながらない。 |
| 商 店 街 | 4月に商店街再開発の会議を開催。昨年12月に開催した「まちづくり商店街活性化勉強会」のアンケート結果から今後の方向性を確認した。次回の会議では問題点の整理や、シミュレーションを行い再開発に向けた検討を行っていく。 |
| 宿 泊 業 | 4月は信玄公祭りや大型連休の前半であったため、宿泊はほぼ満室となった。今年は天候不順により桜桃の開花が早く観光客の出足に影響したと考えられる。安定した集客が見込まれるよう対策を考えたい。 |
| 美 容 業 | 卒業、入学・入社シーズンが終わり、客の動きが鈍化した。 |
| 産業廃棄物処理 | 中国の廃プラスチック類の輸入禁止に伴い、国内の流通に影響が出ている。中国の輸入に依存した処理を変えなくては国内に大量の廃棄物が滞留される状況となることを危惧している。 |
| 一般廃棄物処理 | 国内の資源物、特に古紙・廃プラスチックが中国の輸入禁止により行き場をなくしている。これら資源回収物の再生の考え方が求められている。 |
| 警 備 業 | 年度またぎの公共工事等の完成に向けての追い込みや春の祭典・イベント行事への警備員の派遣要請が増大。4月は警備員の高齢退職や他業種への転職により雇用人数が減少したため、派遣要請に対応ができなかった。人材確保のため賃金値上や福利厚生の実施を図っていく。 |

| | |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 建設業（総合） | 4月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は6%、請負金額は18%減少している。昨年度の前年同期も件数は11%、請負金額は29%減少しており、それをさらに下回る結果となった。平成30年度も厳しいスタートだが今後の動向に注視していく。 |
| 建設業（型枠） | 4月は前年度の工事が終わり、比較的仕事量が少なかった。今年度は公共工事が多く予想されている。また消費税増税前の駆け込み需要もあり仕事量は比較的多いと考えている。 |
| 建設業（鉄構） | 受注は首都圏などの県外物件に依存してる。物件価格は県内のほうが県外より安価傾向にあり、県外依存はさらに進んでいく。 |
| 設備工事（電気工事） | 3月下旬から仕事量の減少は続き、4月になっても継続した。首都圏等の県外の仕事に依存している。 |
| 設備工事（管設備） | 設住宅着工件数の減少傾向が影響し、売上高は前年同月から18.1%減少。技能労働者の数も不足している。建設業の技能労働者の約3分の1は55歳以上と言われ高齢化が進行する状況から、人材確保・育成が課題である。資材の販売においても売上高が減少傾向にあるため、販売促進や徹底した在庫管理に努めていく。 |
| 運輸（タクシー） | 運転手不足が続く。歓送迎会等の宴会が年々減少傾向。今後の見通しは厳しい。 |
| 運輸（トラック） | 働き方改革による労働時間削減は売上の減少につながり賃金の引き上げは厳しい状況である。 |

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

| 対前年・前月・当月 | 製 造 業 | | | 非 製 造 業 | | | 合 計 | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 2017/04 | 2018/03 | 2018/04 | 2017/04 | 2018/03 | 2018/04 | 2017/04 | 2018/03 | 2018/04 |
| 売 上 高 | -20 | 5 | 5 | 0 | 3 | -17 | -8 | 4 | -8 |
| 収 益 状 況 | -5 | -5 | -15 | -3 | -3 | -10 | -4 | -4 | -12 |
| 景 況 感 | -5 | 0 | -10 | -3 | -13 | -13 | -4 | -8 | -12 |

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

